

TSF女体化小説

女体化ランナー

[予備知識]

女体化ランナーとは何か知っていますか？

それは、走れば走るほど、体が女体化していくという特異体質の人のことです。

女体化のプロセスは大きく分けて3段階あります。

最初の変化は首から上に起こります。

顔つきが徐々に女性の顔つきへと変わります。

頬はややふっくらとし、唇はぷるんとなります。

首は細くなり、声は高くまるみを帯びた女性の声になります。

と同時に肌がきめ細かく、つやが出てすべすべになります。

ただし、髪の長さは変わりません。

第2段階では、変化は主に股間部分に現れます。

男性器が徐々に小さくしぼんでいき、

それと同時に^{えいん}会陰部分に女性器の割れ目が生じます。

しまいには男性器は完全に消失し、

かわりに女性器が完璧に形成されていきます。

股間部分以外の変化としては、

肩幅はもともと狭い人が多いですが、

全体的に男性らしい筋肉が減り、

手や脚やウェストなどは筋肉が減った分細くなります。

第2段階が終了した直後は

スリムな女性の体になっているのです。

最終段階では、さらに全体的に女性らしい体つきへと変化していきます。

ただし、子供のうちはこの変化はほとんど起こりません。

具体的には、

バスト、ヒップ、太もも、ふくらはぎなどにむっちりとした肉がつきます。

身長は変わりません。

変化の度合いやスピードは体にかかる負荷によります。

つまり、ゆっくり走れば何も変化は起こりませんが、
走るスピードが速いほど、
急速に、そして大きく体が変わります。

そして、そんな特異体質を持つのは
世界でほんの数人しかいません。
おそらく日本ではただ一人、あなただけ…。

あなたが特異体質に気付いたのは子供の頃。
友達とかけっこをしたりして遊んだあと、
家に帰って来たあなたは、トイレに入ってびっくりしました。
股間にあるべきはずのモノがなかったのですから。
子供の頃ゆえ、胸は大きくならず済みましたが、
家じゅうで大騒ぎとなりました。

ある程度成長すると、
走った後に胸が膨らんでいることに気付きました。

世間体を気にして、
周りに知られたくない両親は、
あなたに激しい運動を禁止しました。
学校には、
病気で医者から激しい運動を禁止されている、
と嘘をつき、体育の授業を休ませました。
そのため、発育が遅れ、同年代の男性に比べ、
背は低く、体は細く、筋肉もあまりつきませんでした。

高校を卒業し、専門学校に入り、
親元を離れ、一人暮らしを始めたあなたは
久しぶりにまともな運動がしたくなりました。
両親からは十分に注意されていましたが、
いつまでも親の言いなりにはなりたくありませんでした。
なによりも、子供の頃のように、

思う存分走ってみたくなったのです。

結果は…言うまでもありません。

既に述べたように、段階を踏まえ

女性の体へと変化したのです。

10代後半の女性の体へと。

戸惑いは当然ありましたが

そのうち慣れてしまいました。

そして、若い男性としてはごく自然な、

女体への好奇心から、

自分の女体を触り、撫でまわし、

男の体とは全く違う、女体の快樂の^{とりこ}虜に

なっていたのです。

そのうち、あなたは自分の手を使うだけでの自慰に

満足できなくなりました。

もっといろいろなことをしてみたい、

中に入れたらもっと気持ちいいに違いない、

そんな思いからあなたは

エッチなおもちゃを使って楽しむようになりました。

女体化したあなたの楽しみは他にもあります。

ささやかな楽しみではありますが、

走っているあなたの姿を

遠くから誰かに眺められたり、すれ違いざまにチラリと見られたり、

そんな場面に出会うと、自分の容姿が褒められ、

自分が注目を集めているような、

そんな感覚になって嬉しくなるのです。

夏のある日、あなたは走った後、

自宅近くの公園で軽く体を動かしていました。

この日は暑かったため、上半身は半袖のTシャツ1枚にノーブラでした。

汗でTシャツは濡れ、ピツパリと体に張り付いています。
(あなたは心理的な抵抗からブラジャーを着けたことはありません。)
向こうにいたおじさんがあなたの体を
ジグジグとなめまわすように見ているのに気づきました。
その視線に気づき、あなたはゾクゾクとしました。
それは美しいものを見るような視線ではありません。
いわゆる「^{しかん}視姦」というものです。

(エロい体だ…。)
まるでそんなふうにおじさんの視線が言っているようです。
あなたは男性ですから、その気持ちはよく分かります。
が、今まで自分の女体が周りの男性を欲情させていた事には
全く気付かなかったのでした。
この体が周りの男たちをムラムラさせている…。
そういう思いに至った時、
あなたはなぜかドクドクと震ってしまったのでした。

あなたは今まで男性として生きてきて、
女性から異性として見られたことが一度もありませんでした。
その時は女性としてですが、異性として見られている。
相手は男性ですが、その時のあなたは女性です。
脳もその時は女性なのです。
女性の脳が男性を意識するのはごく自然なことなのです。
しかし、そこまでの考えは当時のあなたにはありませんでした。
ただ、男性に見られて体がドクドクと反応する。
別に男性が好きなのわけでもないのに…。

そして、そんな日は視姦されている自分を想像しながら
自慰行為をします。
そうするといつもよりもずっと気持ち良くなるのでした。

何度か女体化を繰り返しているうちに、
いろいろなことが分かりました。

まず、走るのをやめてから5時間か6時間ぐらい経つと元の体に戻ることが分かりました。

これは変化の度合いに関係なくほぼ一定です。

次に、走るスピードを上げて

体に負荷をかければかけるほど

体の変化が早く訪れ、しかも、

第3段階の変化が大きくなる、つまり、

よりグラマーな体つきになることが分かったのです。

そして、今年、専門学校を卒業したあなたは、

就職のためにこの街へと引っ越してきたのでした。

[準備体操]

あなたは昼過ぎにようやく目を覚まします。

よっぽど疲れていたのでしょう。

昨日は引っ越しで大変だったのですから。

今日は何をしようか、考えるまでもありません。

もちろんランニングです。

子どもころは、

今日みたいに天気の良い日に、外で走るのが大好きだったのです。

引っ越して来たばかりですが、物件の下調べをした時、

この近くに大きな公園があることをあなたは知りました。

いわゆる市民の憩いの場所です。

中には1周約2kmの大きな池があり、

池の周りには幅の広い遊歩道があります。

のんびり散歩する人もいれば、

あなたのように走る人もいます。

公園内には休憩用のベンチがいくつも設置されています。

疲れたら休めます。